宮路　さつき

MIYAJI　SATSUKI

2009年 時代屋本舗 活動開始
2016年 おうちぎゃらりー じだいやほんぽ
オープン

自宅の一室をギャラリー＆ワークショップスペースとして活動する宮路さつきさん。山ブドウのつる皮で編んだ籠やアクセサリー、古布で作るお雛さま、吊るし雛、一閑張り、布ぞうり、ビーチグラスを使った灯りづくりなど、手仕事の様々な作品を手掛け、市内外で講師として活躍、忙しい日々を過ごしている。

「小さい頃は母が洋服を作ってくれて、それがとても嬉しかった」と話す宮路さん。手づくりすることが大好きで20代の頃に趣味でステンドグラスを始めたことが制作の始まりだった、と振り返る。

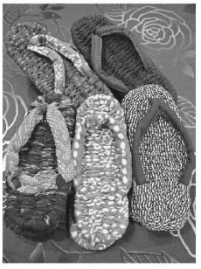
15年前に柏崎に住み始め、柏崎市立博物館の渚を楽しむ会に入会した。浜辺を歩き、貝殻やビーチグラス、古い陶磁片などをたくさん収集するとともに、貝の種類や名前、陶磁片の年代の見分け方など、様々な知識を教わり多くの経験をした。渚を楽しむ会に育ててもらった、と感謝の言葉を口にする。

当時、既にステンドグラスの講師として活動していた宮路さんだが、ステンドグラスは材料が高価だったこともあり、もっとみんなが気軽に安く製作できる方法はないかと考えていた。そこで思いついたのが浜に漂着したビーチグラスや貝殻で作る「灯りづくり」。幸い、柏崎の浜辺には材料がたくさん落ちているし、それを利用することはエコにもなる。青や緑のビーチグラスに白い貝、チリボタンの貝の赤い色が映える美しい灯りは、それまでの会の活動に制作が加わり、博物館事業や子供たちの探検教室など、たくさんの人たちに作る楽しさや喜びを教えてくれた。

宮路さんの作品はどれも丁寧に作られていて、デザインやセンスの良さが見て取れる。そして、彼女のすごいところは、新しいものを常に取り入れて自分なりの工夫を加えているところだ。

例えば、浜辺で採集したウニの殻は型を取りキャンドルに。漂着して色の抜けたカメムシの殻にはレジンを注入して固め、それをイヤリングに加工するなど、ただ感心するしかない。布ぞうりを作るための木製の道具も自ら作り、山ブドウのつる籠に至っては群馬県の職人の家に1カ月住み込みで習得に行くなど、見た目の印象からは想像もつかないほどの行動力を持ち、職人の技術や技術の承継をとても大切に考えている。

彼女がこれからどんな作品を作りだしていくのか。とても楽しみである。



お問い合わせ

おうちぎゃらりー じだいやほんぽ
柏崎市長浜町1-8
TEL 090−7857−0158